

総合案内



SEIREI MIKATAHARA



社会福祉法人 聖隸福祉事業団
総合病院 聖隸三方原病院



キリスト教精神に基づく隣人愛

当院は聖隸発祥の地にあります。聖隸創始者の長谷川保らが、聖隸の運命を変えた昭和天皇から与えられた御下賜金を基に、当院の前身である聖隸保養農園附属病院をこの地に開設したのが1942年です。当時根本的な治療法の無かった結核に罹患し、社会生活から隔離されざるを得なくなった方々を収容する施設だったようですが、既に80年余が経過したことになります。歴史を刻んだこの三方原エリアには、現在当院以外に聖隸学園の運営するこども園や小中高等学校から聖隸クリスチマーク大学・大学院といった教育施設群、聖隸保健事業部の聖隸予防検診センター、また高齢者公益事業部の介護付有料老人ホーム浜名湖エデンの園などが林立する大きな医療福祉教育ゾーンが形成されています。

さて当院は静岡県下最大規模の病床を運営しております。ドクターヘリを有する高度救命救急センターを始め、災害拠点病院にも指定されており、超急性期医療に力を注いでいます。2023年4月には外傷センターを発足させ、重症の外傷患者への対応も更に発展させようとしております。その一方で精神科、結核、ホスピス、リハビリテーション科など、地域から必要とされる医療も積極的に提供しており、また全国的にも数少ない基幹型の浜松市認知症疾患医療センターの認可を受け、今後益々本邦において重要課題となっていくと思われます認知症高齢者人口の増加に対しても地域の中心となって対応してまいります。重症心身障害児(者)を対象とした聖隸おおぞら療育センター、介護老人保健施設三方原ベテルホームの事業も当院で行なっており、医療から福祉にわたって広くカバーしております。創始者らが掲げたキリスト教精神に基づく『隣人愛』という理念を守り、それらは今も脈々と当院に息づいています。今後も選ばれ続ける病院を目指し、職員一同努力してまいります。



病院長
山本 貴道



聖隸三方原福祉タウン



2019年11月開設
地域障がい者総合リハビリテーションセンター



[シンボルマークの由来]

主イエスは最後の晚餐のとき、たらいに水を入れて弟子達の足を洗いました。

当時、他人の足を洗う仕事は奴隸の役割でしたが、自らの行動をもって弟子達に最後の教えを示したのです。

この逸話が聖なる神様の奴隸を意味する『聖隸』の語源となりました。聖隸のシンボルマークは、

故アルバート・アッウェル博士(アメリカ人、1978~81年聖隸学園に奉職)が1980年に考案しました。

外側の二重円はたらいを表し、内側の三つの円は、

聖隸集団の使命である医療(赤)、教育(青)、福祉(緑)を象徴しています。

[患者の権利と義務に関する宣言]

「患者さんが参画する治療へ」

当院が掲げる「患者の権利と義務に関する宣言」は創立以来貫いてきた方針を明文化したものです。

医療が医師任せだった時代から、人に尽くす隣人愛の精神を根底に置き、

患者さんが主体となって参画できる医療を具体的に実行しています。

離れた地域にも迅速な治療を。 私たちは時間と戦い続けます。

「患者さんが受けられる医療に、地域格差をなくしたい」

遠く離れた重症の患者さんにも迅速に高度医療を提供するため、ドクターヘリを導入。

浜松市のみならず近隣の医療機関との連携も図っており、

地域一帯に欠かせない救急医療を担っています。



ドクターヘリ

救急現場へ医師、看護師を派遣することで初期治療までの時間短縮することが最大の目的です。早期に治療開始することにより、救命率の向上や後遺障害の軽減等の効果、さらには、重症例も軽症化され医療費の抑制にも繋がります。また、ドクターヘリの機動力を活かして短時間で適切な医療機関へ搬送できます。これによりべき地における救急医療体制を強化し地域格差をなくすことができます。

高度な診療機能を提供し、地域の救急医療を支えます



高度救命救急センター

当院は浜松市北部一帯をカバーする救命救急センターとして専門スタッフを配置し、24時間365日患者さんの受け入れに備えています。施設は救急車搬送口や屋上ヘリポートと直結し、病院前救護から迅速な救命処置、さらに集中治療室の専門医への橋渡しまで、迅速・円滑に連携できる体制を整えています。

総合病院の特色を活かした緩和ケア



聖隸ホスピス

ホスピスでは治療をするだけでなく精神的な苦痛、孤独、不安などを軽減し、患者さんやご家族とともに生命の意義を考えつつ、人間らしく尊厳を持って生きぬくことができるよう援助します。スタッフとの信頼関係を基盤に、総合病院内にあるという特色を活かし最も適した治療を進めていきます。



手厚い医療的ケアを必要とする



方たちの「生活の場」を提供

聖隸おおぞら 療育センター

小児期に発症した重症心身障害児(者)を支援する施設として、1973年に設立され、2006年に当院に移管されました。利用者一人ひとりの障がいを理解し、その方にとって良い生活が送れるようにサポートしています。暮らしやすさを考慮した明るく開放的な施設では、入所やショートステイの他、通所サービスも行っています。



障がいがあっても住み慣れた地域で生活をおくる場を提供

地域障がい者 総合リハビリテーションセンター

この施設は外来対応に限定されますが、医療の提供はもちろん、教育・啓発などの支援普及など様々な活動を担っています。そのための施設として障がい者スポーツや災害時支援を念頭に入れたアリーナなどを備えています。

この中で障がい者の対応はもとより、障がい者を支える家族を含めた支援者へのサポートも図っています。

地域の患者さんに 最先端の高度医療を。

当院が常に先進的な医療を目指す目的は、
高い専門技術を持った地域の基幹病院として、
患者さんに充実した医療を提供すること。
そして、医療界をリードする先進的な医療技術を研鑽し、
全国の病院に広めていくことです。



信頼の最新医療を 支える設備

より信頼性の高い医療環境を目指し、すべての手術室に「手術室部門システム」を導入しています。これは、生体情報モニターをはじめとする医療機器からの情報データを取り込んだ上で、手術記録や看護記録の電子化するものです。院内の電子カルテとも連携しており、病棟からも患者さんの状況をリアルタイムに把握できます。



da Vinci サージカルシステム

ロボティックアーム Makoシステム



TOPICS 1

ハイブリッド手術室対応多軸透視・ 撮影システムARTIS Phenoの導入

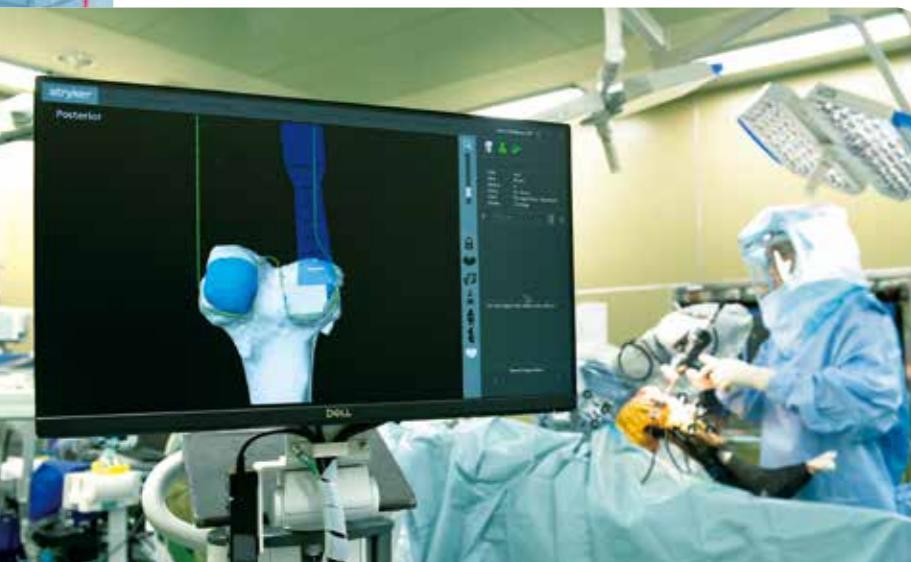
ハイブリッド手術室とは、据置型の血管撮影装置を手術室内に設置することで、外科的な手術と血管内治療を複合的に行える手術室です。ハイブリッド手術室に導入した多軸透視・撮影システムARTIS Phenoは、次世代の血管造影装置と位置づけられ、経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI/TAVR)や大動脈瘤のステントグラフト留置術などのハイブリッド手術を行う上で最適化され、より低侵襲で正確な手術を実現します。



TOPICS 2

高精度放射線治療機 VersaHDの導入

1号機をElekta社の旗艦最新高精度放射線治療装置VersaHDに更新し、2号機ノバリスTxに続き放射線治療装置2台とともに高精度化しました。定位照射(SRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、呼吸同期の強度変調放射線治療(IMRT)など最適で低侵襲な治療が行えます。専門医とともに医学物理士、放射線治療品質管理士、専門技師、がん放射線療法看護認定看護師などスタッフも充実させ、より安全な体制の構築に努めています。



当院は、人間味あふれる医師、
プライマリ・ケアの基本的な診療を
しっかり身に付けた医師の育成を目指します。

研修
プログラムの
特徴

プライマリ・ケアにおける基本的な診療能力を育むための内科研修と、希望者には研修期間の延長が可能な選択外科研修があり、柔軟に対応できる自由度の高さが魅力です。また、救急科のドクターへリ同乗研修等、聖隸三方原病院ならではの充実した研修も選択ができます。

地域医療研修を除き
全ての研修が院内で
完結できます。

スケジュール
[標準的なモデル]

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年次	総合診療 内科①	選択内科 ①	選択内科②	選択外科	救急科	小児科	産婦人科	麻酔科	精神科			
2年次	総合診療 内科②	選択内科 ③	救急科	地域医療	選択科①	選択科②	選択科③	選択科④	選択科⑤	選択科⑥	選択科⑦	選択科⑧

※一期間4週相当

地域医療研修

- 聖隸淡路病院(兵庫県淡路市)
- 佐久間病院(浜松市天竜区)
- 沖永良部病院(鹿児島県 沖永良部島)

POINT

30科以上の豊富な診療科の内、最大8科の選択科を選べる

各科指導医のきめ細やかで実践的な医療を学ぶことができます。

研修サポート

研修生活をサポートするため、臨床研修センタースタッフ(兼務看護師含む)が2年間の研修生活を支えるだけでなく、プラザーやコメディカルが強力にバックアップしています。



□ プラザー制度

先輩医師(指導医と別)が研修医の成長をサポートする制度です。研修医の日々の悩み(研修のアドバイス、将来の進路、選択科の選び方や専攻について等)に対して幅広く相談に乗ります。

□ レジデントディ

月に一度、研修医を診療からフリーにして学習・研鑽に充てる取り組みを行っています。上級医によるレクチャー、研修医による症例プレゼンや院外から様々な講師を招き、講演を行っています。

□ 当直サポート

2年目と1年目がペアになり屋根瓦方式での研修を行います。内科直・外科直のほかにも専門科当直・宅直の体制も整っていますので、安心して当直できる環境となっています。

□ エコー勉強会 月2回(4月~9月)

臨床検査技師によるレクチャーです。導入から始まり、主に腹部と心臓の研修を行います。



□ 感染症集中講義

初期研修医を対象とした感染症に関する講習会を開催しています。



初期研修から続く研修体制
(専門医研修)

初期研修修了後も引き続き当院を基幹病院として専門医研修を受けることができます。

- 内科 ●外科 ●小児科 ●救急科 ●精神科
- 総合診療 ●泌尿器科 ●麻酔科



救急では、1年目で600件、
2年目で800件近い症例を
経験可能

1次～3次までの救急患者の受け入れを行っている高度救命救急センターでは、ローテート及び当直(5～6回/月)で、1年目600件、2年目800件近い症例を経験可能です。また、小児の救急患者のファーストタッチ*を研修医が行います。
*病院で最初に行う診察のこと

ドクターへリを有しており、2年次に救急科を選択研修すると、**ドクターへリに同乗実習も可能**です。設備の整ったER(救命救急室)とは異なる環境下での診療体験から得られるものは多くあります。



看護部理念の「聖隸創設者の設立の理念である
『隣人愛』を継承し、助けを必要とする人に
手をさしのべることを第一とする」を実現する
看護師の育成を目指します。

研修サポート

多様性のある領域で看護実践能力を高め、その場に
応じた知識・技術を発揮できる看護師を育成します。

Generalist
ジェネラリスト

看護実践能力を高めることで、
その場に応じた知識・技術・態度を
どの職場でも発揮できるよう
な看護師となります。

クリニカルラダー

Clinical ladder
level 1

必要に応じ
助言を得て実践する

Clinical ladder
level 2

標準的な実践を
自立して行う

Clinical ladder
level 3

個別の状況に応じた
判断と実践を行う

Clinical ladder
level 4

幅広い視野で
予測的に判断し
実践を行い、
ロールモデルとなる

Clinical ladder
level 5

より複雑な状況において
創造的な実践を行い、
組織や分野を超えて
参画する



Specialist
スペシャリスト

現在、約30名の認定看護師、
専門看護師が院内外で
活躍しています。

専門看護師

CNS Certified Nurse Specialist



日本看護協会専門看護師認定試験に合格
し、より困難で複雑な健康問題を抱えた人・家
族・地域等に対してより質の高い看護を提供
するための知識や技術を備えた特定の看護
分野において卓越した看護実践のできる者

がん看護専門看護師
急性・重症患者看護専門看護師
家族支援専門看護師

老人看護専門看護師
慢性疾患看護専門看護師
小児看護専門看護師

認定看護師

CN Certified Nurse



日本看護協会の認定看
護師認定審査に合格し、
ある特定の看護分野にお
いて、熟練した看護技術と
知識を用いて水準の高い
看護実践を通して看護師
に対する指導・相談活動
を行う者

認定看護管理者

CNA Certified Nurse Administrator

看護管理者は、職場や
看護部の課題達成に
取り組んでいます。

認定看護管理者認定審査に合格し、管理者とし
て優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させ
ことができる能力を有すると認められた者

がん薬物療法看護認定看護師
乳がん看護認定看護師
緩和ケア認定看護師
手術看護認定看護師
感染管理認定看護師
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
呼吸器疾患看護認定看護師

がん放射線療法看護認定看護師
がん性疼痛看護認定看護師
クリティカルケア認定看護師
皮膚・排泄ケア看護認定看護師
摂食・嚥下障害看護認定看護師
認知症看護認定看護師
精神科認定看護師

看護師特定行為研修 ~専門性を高めたい看護師に充実サポート~

高度医療及び地域医療の場面において、医療安全を配慮し、高度な臨床実践能力を発揮し、
自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成することを目的とした研修。

※2019年8月22日付け厚生労働省より「特定行為研修指定研修機関」に指定されました。

認定看護管理者教育課程 [ファーストレベル・セカンドレベル]

多様なヘルスニーズを持つ個人・家族および地域に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指します。
自立的研鑽を求める教育・学究の場となることを変動する環境に適応し、発展に向けて挑戦し続けられる人材を育成します。

※日本看護協会から認定を受け、日本看護協会認定看護管理者委員会の提示する「カリキュラム基準」に基づいて実施しています。

病院概要

概要

2025年4月時点

開設者	社会福祉法人 聖隸福祉事業団
病院名	総合病院 聖隸三方原病院
開院日	1942年(昭和17年)12月24日
理事長	青木 善治
病院長	山本 貴道
施設種別	医療保護施設(第2種社会福祉事業)
敷地面積	69,245.81m ² うち聖隸おおぞら療育センター20,461.89m ² 地域障がい者総合リハビリテーションセンター13,133.22m ²
延床面積	79,074.96m ² うち聖隸おおぞら療育センター10,649.63m ² 地域障がい者総合リハビリテーションセンター3,003.54m ²
病床数	928床(一般810床・精神104床・結核14床)
住所	〒433-8558 静岡県浜松市中央区三方原町3453

標榜科目

内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、感染症・リウマチ科、腎臓内科、肝臓内科、救急科、形成外科、放射線治療科、病理診断科、臨床検査科、血液内科、緩和ケア内科、消化器外科、歯科(計33科)

救急医療

三次救急指定病院、精神科救急医療基幹病院、ドクターヘリ導入
促進事業実施

地域に求められる主な病院機能

浜松市認知症疾患 医療センター(基幹型)

高齢化の進展に伴う認知症患者の急速な増加を背景に、「地域において認知症に対し進行予防から地域生活の維持まで必要となる医療を提供できる機能体制の構築」を目的として設置されました。認知症疾患における鑑別診断や専門医療相談、医療機関等の紹介、地域保健医療・介護関係者への研修や連携などを行う専門医療機関です。

精神科医療

静岡県西部地区における精神科常時対応型病院として、地域の精神科輪番病院と協力体制を組み、迅速かつ適正な医療の提供を行っています。また精神疾患を有しながら身体合併症を併発した方に対して医療を提供できる身体合併症対応施設となっておりますので、精神疾患と身体疾患のいずれも入院治療が必要と判断された方について、可能な限り受け入れを行っております。

災害拠点病院

災害時に重傷者を受け入れるために都道府県が指定した病院です。当院では大規模災害発生時、地域の中で中心となり救命活動を行い、同時に被災された方々を設備の整った被災地以外の病院へ搬送する拠点となります。また広域災害が他の地域で起こったときには、DMATという専門チームを中心に、要請に適した職員を被災地に派遣します。

地域がん診療連携 拠点病院

質の高いがん医療を受けることができるよう、各地域におけるがん診療の連携・支援を推進するため、厚生労働大臣より指定された病院のことです。当院は2005年1月に厚生労働大臣より指定を受けています。集学的治療および標準的治療の提供をはじめ、がんサポートセンターの運営やがんゲノム医療連携の体制の充実を計っています。

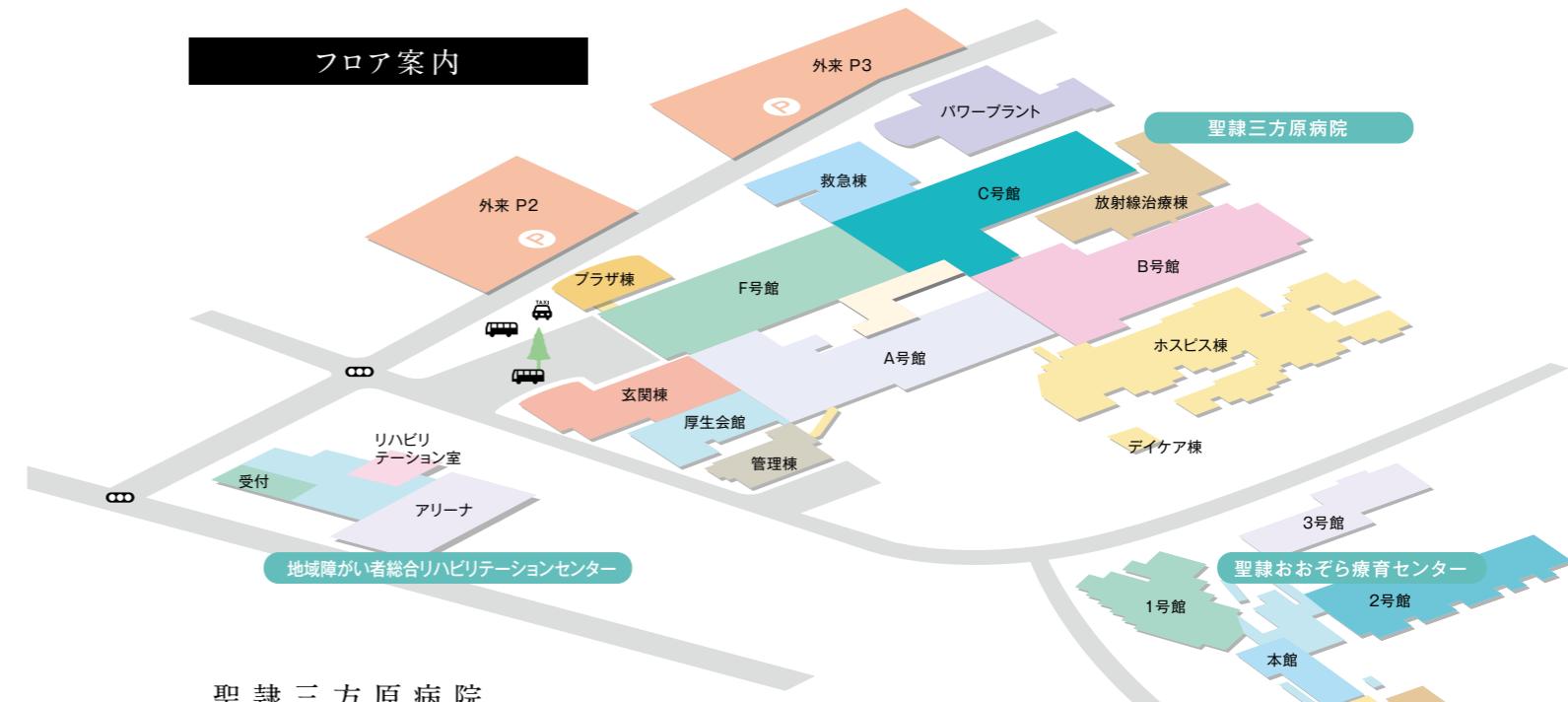
地域医療支援病院

地域の中核病院として2004年6月に地域医療支援病院の認可を受けました。地域の医師会・診療所と連携を図り、積極的に紹介患者さんを受入れ、かかりつけ医と共に地域全体で医療を提供する体制を構築し充実した救急医療を提供します。

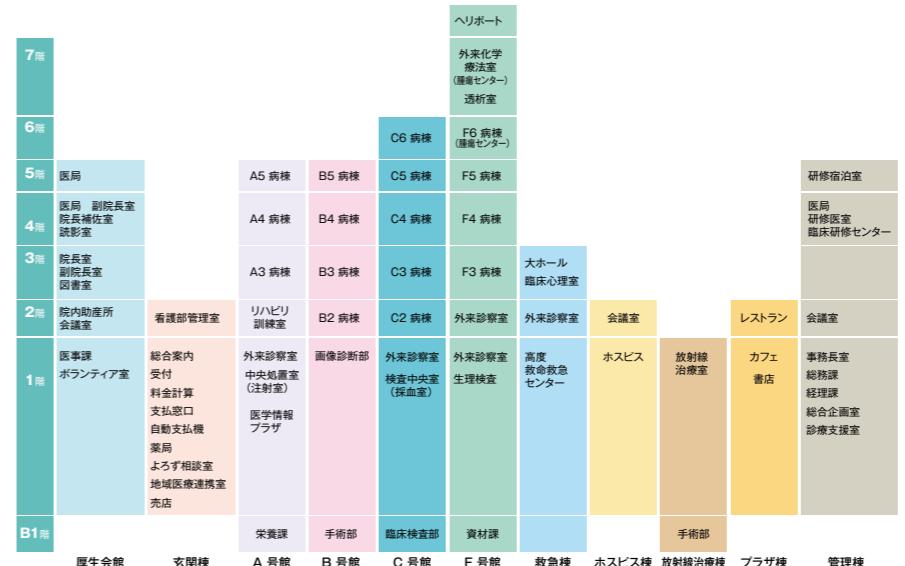
院内助産所 たんぽぽ

助産師が中心となって順調な妊娠経過の方の「お産」を担当していく院内助産所「たんぽぽ」を2009年3月に運用開始しました。これは医療設備・体制の整った病院内の「安全なお産」と、産後まで経験豊富な助産師がご夫婦の「バースプラン(注)」に沿ってお世話させていただきアットホームで快適な「あたたかいお産」の両立が実現可能なシステムです。

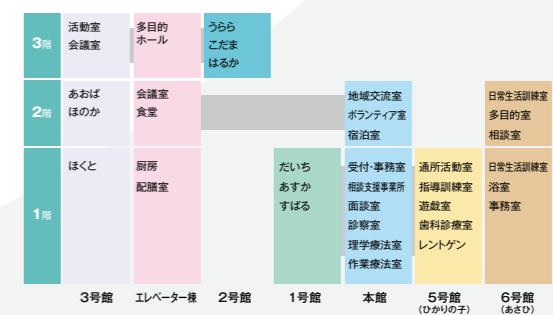
フロア案内



聖隸三方原病院



聖隸おおぞら療育センター



認定施設

保険医療機関
労災保険指定医療機関
指定自立支援医療機関(更生医療)
指定自立支援医療機関(育成医療)
指定自立支援医療機関(精神通院医療)
精神保健福祉法指定病院
応急入院指定病院
生活保護法指定医療機関
結核指定医療機関
指定養育医療機関
戦傷病者特別援護法指定医療機関
原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関
第二種感染症指定医療機関(結核病床を有する)
公害医療機関
地域医療支援病院

地域災害医療センター(災害拠点病院)
高度救命救急センター
基幹型臨床研修病院
地域がん診療連携拠点病院
エイズ治療拠点病院
地域肝疾患診療連携拠点病院
特定疾患治療研究事業委託医療機関
DPC 対象病院(特定病院群)
指定小児慢性特定疾病医療機関
地域周産期母子医療センター
災害派遣精神医療チーム静岡DPAT 指定病院
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
特定行為研修指定研修機関
災害拠点精神科病院
新興感染症指定医療機関(第一種第二種)
臓器移植推進協力病院

学会認定

日本内科学会認定医教育病院
日本呼吸器学会認定施設
日本アレルギー学会認定教育施設
日本呼吸器内視鏡学会認定施設
呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設(基幹)
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本高血圧学会専門医認定施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本消化器病学会認定施設
日本消化器内視鏡学会指導施設
日本肝臓学会認定施設
日本血液学会認定血液研修施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設
日本リウマチ学会教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本感染症学会認定研修施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本脳神経外科専門医研修プログラム連携施設
日本脳神経外傷学会認定研修施設
日本脳卒中学会研修教育病院
日本脳卒中学会第一次脳卒中センター
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本ペインクリニック学会指定研修施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本乳癌学会認定施設
日本消化器外科学会専門医研修施設
日本消化管学会胃腸科指導施設

日本肝胆脾外科学会肝胆脾外科高度技能専門医修練施設B
日本胆道学会指導施設
日本精神神経学会精神科専門医研修施設
日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医制度研修施設・支援施設
日本小児神経学会小児神経専門医研修施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児)暫定認定施設
日本周産期・新生児医学会周産期専門医(新生児)暫定認定施設
日本臨床腫瘍学会がん診療病院連携研修病院
日本緩和医療学会地域緩和ケアンネットワーク研修施設
日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設(基幹施設)
日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設(基幹施設)
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本形成外科学会認定施設
日本栄養学会栄養サポートチーム(NST)稼動施設
日本航空医療学会認定施設
日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム(NST)専門療法士認定取得教育施設
日本臨床栄養代謝学会
NST(栄養サポートチーム)稼動施設
日本病理学会研修認定施設B
日本病態栄養学会・日本栄養士会がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設
日本臨床衛生検査技師会・日本臨床検査標準協議会品質保証施設
日本がん検診精度管理中央機構
マンモグラフィ検診施設画像認定施設
日本救急撮影技師認定機構指定実施研修施設
日本NCD 施設会員

病院沿革

聖隸の起源

昭和初期のことでした。

当時、不治の病と忌み嫌われていた結核に苦しむ青年を引き取り、

看病した長谷川保をはじめとする数名の若者たち。それがすべての始まりでした。

結核患者さんのお世話をすることから始まり、

その後に診療所から病院へと充実した医療機関となりました。



聖隸歴史資料館
長谷川保の聖書(原本)

1930年(昭和5年) 5月／広沢町の愛耕園にある住宅を教會青年のカンバで改築し、腰椎カリエス患者を収容 貧しい結核患者の収容保護事業を開始

1937年(昭和12年) 4月／ベテルホーム移転開始 聖隸保養農園と改名

1939年(昭和14年) 12月／天皇陛下より特別御下賜金を賜わる これにより迫害終わる

1942年(昭和17年) 8月／財團法人聖隸保養農園認可

1942年
財團法人聖隸保養農園認可



1942年(昭和17年) 12月／聖隸三方原病院の前身、聖隸保養農園附属病院開設

1967年(昭和42年) 5月／聖隸病院本館が落成(318床)

1973年(昭和48年) 3月／聖隸病院を「聖隸三方原病院」と改称

1980年(昭和55年) 12月／社会福祉法人聖隸保養園を社会福祉法人聖隸福祉事業団と改称

1981年(昭和56年) 5月／地上5階、地下1階、延面積1万m²の新病棟落成、開設 現A号館(534床)

1984年(昭和59年) 4月／原義雄博士を迎、日本初のホスピス、一般病棟の中で開始

1984年(昭和59年) 4月／日本救急医療ヘリコプター株式会社発足(中日本航空などと提携)

1984年(昭和59年) 11月／マザーテレサ来訪、ホスピス慰問
1984年
マザーテレサ来訪



1987年(昭和62年) 3月／第二期増改築工事、2号館(現B号館)落成、開設(790床)
1991年(平成3年) 4月／老人保健施設「三方原ベテルホーム」併設
1992年(平成4年) 9月／病院玄間に「患者の権利に関する宣言」を掲げる

1994年
天皇・皇后両陛下が御視察



1994年(平成6年) 1月／天皇・皇后両陛下がホスピス病棟を御視察
1996年(平成8年) 4月／C号館落成、開設(770床)
1999年(平成11年) 6月／患者団書室開設
2001年(平成13年) 9月／救命救急センター指定(38床)
2002年(平成14年) 10月／ドクターヘリ導入促進事業正式運航を開始
2003年(平成15年) 3月／(財)日本医療機能評価機構の認定
12月／精神科救急入院料の施設基準承認
2004年(平成16年) 4月／ロボット支援手術Makoシステム導入
6月／地域医療支援病院承認

2005年(平成17年) 8月／ドクターヘリ出動件数2000件突破
10月／パキスタン大地震救援の為、医師を現地派遣

11月／F号館建築に伴う病棟再編成(1病棟43床吸収)

7月／DPC(包括評価)対象病院となる
10月／おおぞら療育センターが社会福祉法人小羊学園より聖隸福祉事業団に運営が移管される 施設名称は「聖隸おおぞら療育センター」となる

2006年(平成18年) 3月／F号館落成、開設
6月／ドクターヘリ・ヘリポート移転(F号館屋上)

12月／プラザ棟落成、開設
2008年(平成20年) 3月／院内助産所「たんぽぽ」を開設
6月／手術支援ロボットダヴィンチ導入
12月／聖隸おおぞら療育センター3号館落成、開設(934床)

2009年(平成21年) 3月／院内助産所「たんぽぽ」を開設
3月／東日本大震災被災地へDMATチーム派遣
2011年(平成23年) 1月／聖隸おおぞら療育センター3号館落成、開設
4月／手術支援ロボットダヴィンチ導入
5月／聖隸三方原病院ボランティアの会 緑綬褒章受章

7月／浜松市認知症医療センターの指定「基幹型」は県内初の指定
2012年(平成24年) 1月／聖隸おおぞら療育センター3号館落成、開設
4月／手術支援ロボットダヴィンチ導入
5月／聖隸三方原病院ボランティアの会 緑綬褒章受章

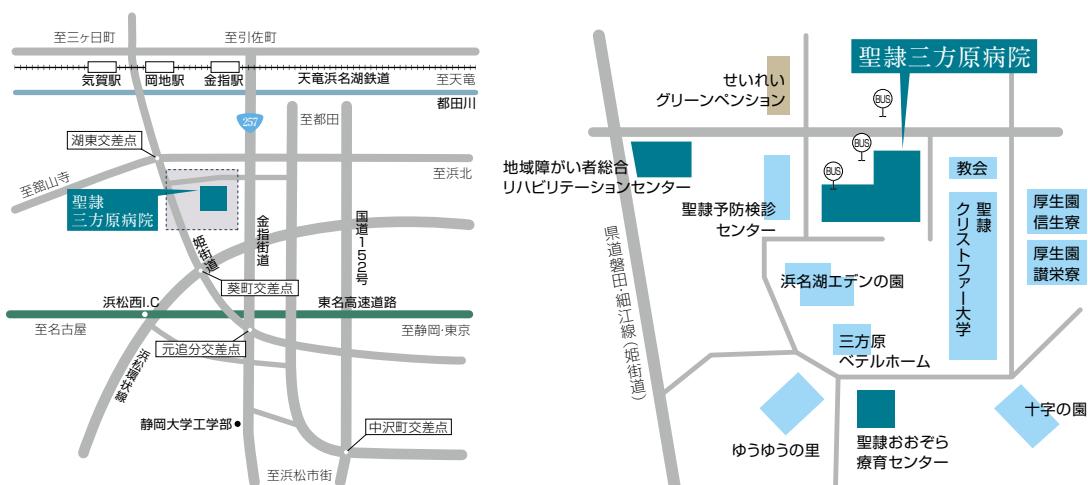
2013年(平成25年) 7月／浜松市認知症医療センターの指定「基幹型」は県内初の指定
2014年(平成26年) 11月／第8回ワーカーライフバランス大賞受賞
2015年(平成27年) 3月／高度救命救急センターの指定
12月／聖隸おおぞら療育センターが御下賜金を賜る

2018年(平成30年) 11月／地域障がい者総合リハビリテーションセンター落成、開設
2019年(令和1年) 3月／手術支援ロボットダヴィンチ導入
11月／地域障がい者総合リハビリテーションセンター落成、開設

2020年(令和2年) 3月／手術支援ロボットダヴィンチ導入
2021年(令和3年) 3月／ドクターヘリ格納庫竣工
4月／F6重症病棟(6床) 病床数変更認可
※2024年4月コロナ終息により認可下げ
12月／病院開設80周年

2022年(令和4年) 4月／ロボット支援手術Makoシステム導入
12月／精神科救急入院料の施設基準承認
2024年(令和6年) 4月／ロボット支援手術Makoシステム導入

SEIREI MIKATAHARA



/ Access /

- JR浜松駅よりバスで約50分
駅北口バスターミナルの15番のりば
40 聖隸三方原病院 気賀 三ヶ日 方面
聖隸三方原病院バス停下車

- JR浜松駅よりタクシーで約40分
●東名高速道路、浜松西インターチェンジより車で約15分

愛と緑の総合病院



社会福祉法人 聖隸福祉事業団
総合病院 聖隸三方原病院

〒433-8558 静岡県浜松市中央区三方原町3453

TEL.053-436-1251 〈代表〉 FAX.053-438-2971

聖隸三方原

<https://www.seirei.or.jp/mikatahara/>

